



植物図鑑ドリル問題 01

被子植物 双子葉類 アブラナ科

アブラナ



アブラナは、学校の花だんや畑などに生えていて、(1)になると黄色の花をさかせているのが見られます。「菜の花」とよばれることもあります。

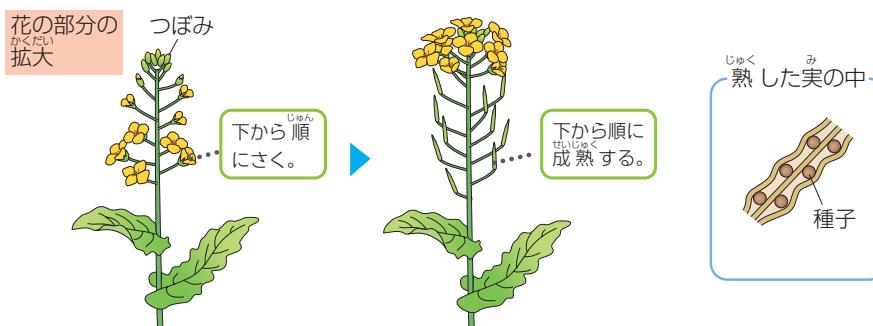
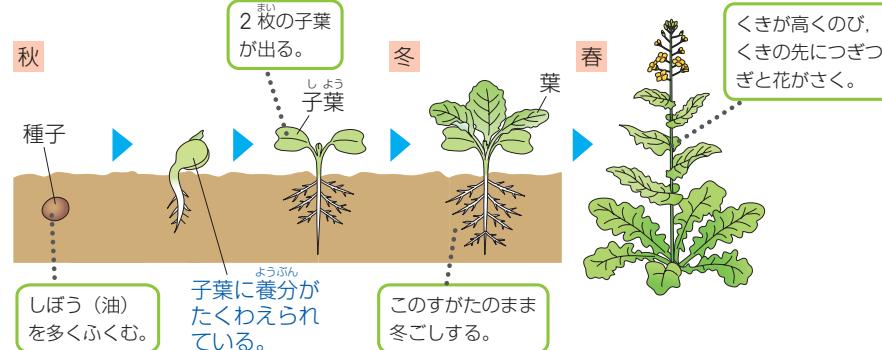
アブラナは、くきや葉、つぼみの部分が食用とされるだけでなく、(2)の油がしぶられて「菜種油」として利用されています。

葉が(3)の幼虫のえさとなるため、(3)の卵がうみつけられます。



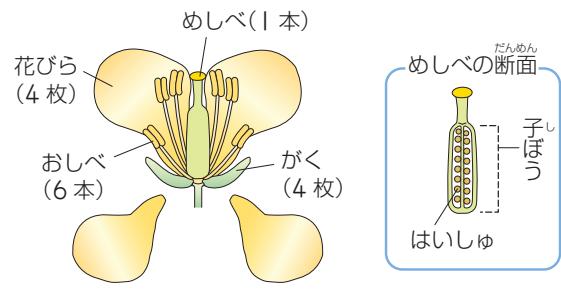
成長のようす

アブラナは(4)です。(5)に種子が発芽し、葉が出て少し成長したすぐたで冬ごします。春になると大きく成長し、花をさかせます。種子をつくると、やがてかれます。



花のつくり

アブラナの花は、花びらが1枚1枚分かれる(6)です。アブラナ科のほかの植物も、アブラナの花に似たつくりの花をさかせます。



ナブラスワン

6本あるおしべのうち、4本は長く、2本は短くなっています。

はいしゅがたくさん入っているため、めしべの子房が長いのも特徴です。

開花条件

アブラナは、1日のうちで暗い時間の長さが一定より(7)なる(日が長くなる)とつぼみをつけ、開花する(8)です。



アブラナ科のほとんどの植物は、春から夏にかけて花が咲くんじや。春から夏(夏至)にかけて日がどんどん長くなり夜が短くなることから、長日植物だと予想できるぞ。

受粉の仕方

アブラナの花は、昆虫に花粉を運んでもらう(9)です。昆虫を引き寄せるために、おしべのつけ根の近くから(10)を出します。



アブラナのように、花びらを持ち、目立つ花は、虫ばい花であることが多いんじや。多くの場合は、同じ種類のほかの花の花粉がめしべについて、受粉するのじゃぞ。入試では受粉の実験の問題もよく出題されるぞ。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。

ダイコン

★★☆

ダイコンは、野菜としておもに(11)が食用とされています。葉を食用とするともあります。1年を通してさいばいされ、収かくされますが、しゅんは(12)です。ダイコンは「スズシロ」ともいい、(13)の1つです。

成長のようす



ダイコンは種子を夏ごろにまくと、秋から冬には収かくできるようになります。収かくせず、そのまま成長させた場合、春になると大きさを高くのばし、(14)の花を咲かせます。



ダイコンの利用



ダイコンを畑などで育てると(15)が太く大きく成長し、その部分が食用とされます。ダイコンの種子を、日光のあたらない場所で発芽させると、ひょろひょろとのびます。これが(16)です。



+プラスワン

ダイコンの根には、デンプンを分解する消化酵素がたくさん入っています。なお、春の七草として食用とするのは、葉の部分です。

キャベツ

★★☆

キャベツは、野菜として(17)が食用とされています。夏に種子をまいて冬ごろ収かくされるものが多く、ほかに、冬に種子をまいて春に収かくされるものや、春に種子をまいて夏から秋に収かくされるものがあります。

葉が(18)の幼虫のえさとなるため、春のキャベツ畑には(19)のためにたくさんのモンシロチョウがおとずれます。



+プラスワン

春、キャベツを収かくせず成長させると、重なり合った葉をやぶってくきがのび、花をつけます。キャベツの花は、アブラナとよく似た黄色の花です。

ハクサイ

★★☆

ハクサイは、野菜として(20)が食用とされています。ふつう(21)に種子をまき、(22)の終わりから(23)ごろに収かくされます。



+プラスワン

ハクサイを収かくせず、そのまま成長させると、葉の間からくきがのび、春にはアブラナとよく似た黄色の花をつけます。